

系 車

編集 山形村ふるさと伝承館



庚申信仰

庚申信仰は六十日に一度めぐってくる干支^{えと}のかのえさるの日の夜、眠らずに過ごして健康長寿を願う信仰である。

人の身中には三尸^{さんし}という虫がいて、庚申日の夜人が眠ると身中から抜け出し昇天して天帝にその人の罪過を告げる。すると天帝はそれによってその人の生命を縮めるという。そこでその夜は眠らないで過ごしたいのだが一人では難しいので、多勢集まって庚申様を祀り、念仏を唱えたり、お茶や酒を飲んで歓談したりして一夜を過ごすいわゆる「お日待ち」をするのである。この集りが庚申講である。

この信仰は古く、平安時代に始まり今も続いているが、きちんと六十日毎の庚申日に行く講は少なく、多くは年の始めと終りの庚申日だけになってしまっている。

この庚申信仰により建てられた石仏が庚申塔で、山形村には28体ある。その中12体は青面金剛像を刻んだ像塔であり、残りの16体は「庚申」などと彫った文字塔である。

(写真は薬王寺、向って左から三番目が庚申塔)

写真で見るふるさと 石仏信仰

村内最古の庚申塔

上大池公民館前、桜堂の墓地内にある笠塔型の庚申塔で、塔身の向って右側面に「元禄二己巳年十一月吉日」、左側面に「結願衆各之敬白」と刻んである。今から三百年余り前に法会の終った結願の人々によって建立されたもので、記年銘のある庚申塔としては村内で最も古い。

従って塔身正面に半肉彫りにされた一面四臂の青面金剛の像も大分摩滅しており、顔面ははっきりしないし、右の一手に持つ鬼の金棒のような長い棒と、左の一手に持つ縄はわかるが、残りの二手は何を持っているかわからない。

下からそれぞれ20・14・25cmの高さの三段からなる基台の上に、高さ60cmの塔身が立ち、その上に18cmの笠と23cmの宝珠が載り、総高160cmの立派な庚申塔である。



殿村の庚申像

小坂殿村の御柱の立っている広場に大小七基の石仏が行儀よく並んでいる。その向って左から二番目がこの庚申像であり、その左は秀作として著名な道祖神「筒井筒小坂」である。共に寛政期の作であるが、庚申像が元年（一七八九）、道祖神が七年の作であり、村内の当時の他の道祖神や庚申像の優れた彫像などと共に高遠石工の手になるものと思われる。

高さが15cmの基壇の上に120cmの舟型の堂々たる庚申像が立つ。一面六臂の青面金剛像の足もとに三猿、頭上に日月が彫られているが、庚申につきものの二鳥の姿は見えない。施主名は「殿村中」とある。

天帝三彭の庚申塔

中大池地藏様広場にあるこの庚申塔には「三針三鞭供養塔」と刻まれている。三彭は巻頭に記した三戸の虫のことである。

木曾須原の名刹定勝寺の門前にある「除三戸之罪」と刻んだ庚申塔は石仏研究家によく知られているが、庚申信仰の原典にふれた天帝や三彭（尸）の文字を刻んだ庚申塔は全国的にも数が少く貴重な石造文化財である。

古文書によると中大池では安永二年（一七七三）から、二十三夜講・庚申講の仲間が無尽講をつくっているが、それから六年目の安永八年三月にこの仲間が建立したのがこの石碑である。



朱塗りの庚申様

下大池橋爪西集落の東入口
広場正面に祀られているが、
瓦葺きの立派な霊屋内に安置
され、村内で一番大切にされ
ているお庚申様に見える。

元禄十一年の記年銘があ
り、前掲桜堂の庚申塔に次
いで古い庚申様で、元は八幡社
の下の西原地籍にあったのを
大正十五年に移したものだ
と。

高さ82cmの破風型碑身全体
が朱で赤く塗られているのは
他に例がなく、まことに珍し
い。その理由も、いつ頃から
塗られたかも詳かでない。

碑身の破風の所に日月が陰
刻され、中心に半肉彫りの青
面金剛像が立っている。衣裳



は長めのふんどしをつけ、尻
挟みをしており、膝から下は
すねを出している。一面四臂
で、棒、三股叉、けんじやく
輪を持つている。足もとに二
匹の猿が向かいあつて坐つて
いる。古い庚申塔は二猿であ
るが、元禄期以降になると、
「見ざる、聞かざる、言わざる」
の三猿を刻んだものが多くな
つて来る。二猿の下に二鶏が
向い合っている。

碑にはまた「村中施主敬白」
と彫つてあるが、堂内に掲げ
てある「庚申尊霊屋寄附者芳
名」の板額をみると最高一円
から最低二〇銭までの五七名
の寄附者が記されている。総
計二一円五〇銭となるが、大
正十五年にはそれ位でこの霊
屋が出来たのだろうか。



童顔庚申像

上竹田建部社の大鳥居前の
道沿いに、左右の二体の道祖
神を脇侍の様にして立つ合掌
六臂の青面金剛像を刻んだ庚
申塔である。

青面金剛像は合掌手の他の
脇手には、この像の様に弓矢
か、または三股叉・棒の様な
武器を持ち、顔は恐ろしい忿
怒形なのが普通だが、この青
面金剛像はまことに優しい童
顔である。それが「童顔」「路
傍の情熱」と名づけられた左
右二体の道祖神と相和して、
この石仏トリオの立つ建部社
周辺一帯に、何ともいえない
穏やかな、温かい雰囲気をか
らせている。

れた三猿の姿態もほ、笑まし
い。

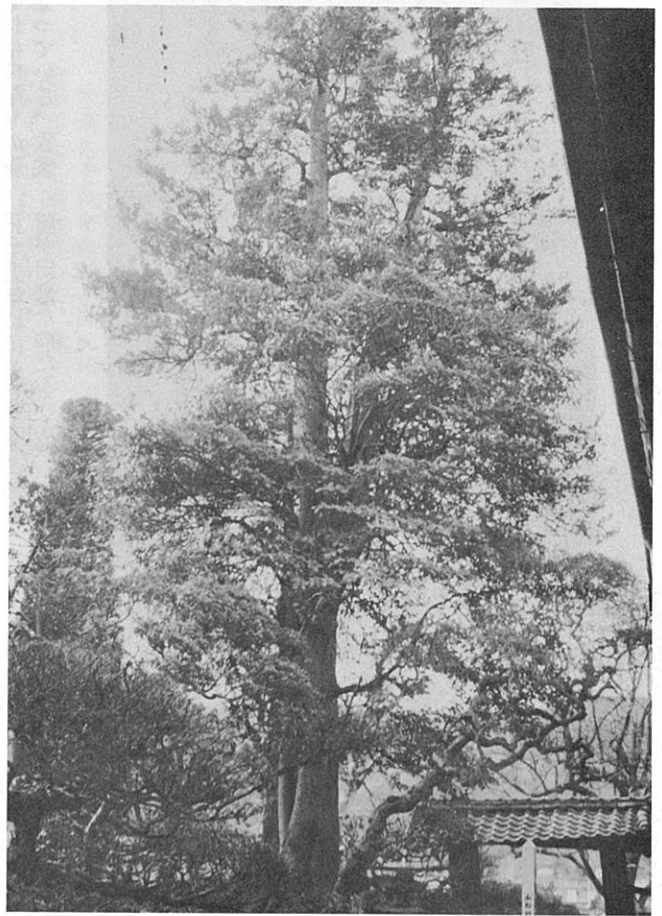
北堀の文字塔

写真には下竹田北堀の文字塔
である。村にある十六体の文
字塔の中、この様に「庚申塔」
と刻んだものは二体だけで、
他の一体も下竹田公民館広場
にある。最も多いのが唯「庚申」
と彫つたもので九体と「庚申
尊」が一体ある。その他は「庚
申講」が二体、「庚申供養塔」
「青面金剛塔」各一体、「南無
阿弥陀仏・庚申供養」と刻み
名号碑と兼ねたものが一体、
それに前掲中大池の三戸塔で
ある。

この庚申塔の記年銘は安政
七庚申年二月廿五日とあり、
六十年に一度の庚申年を記念
して建てたものである。村内
には庚申年に建てたものが他
に二体ある。



村の天然記念物



下大池
旧酒屋のカヤ

イチイ科 カヤ属 常緑高木
雌雄異株 4〜5月頃開花
雌花は緑色で、翌年10月頃赤
褐色に成熟し裂けて落果す。
用材は碁盤に最適だとされ珍
重される。

樹高 約18m
枝張 約9m
樹齡 推定 130年

小坂

諏訪社のケヤキ

ニレ科 ケヤキ属 落葉高木
日本の代表的広葉樹の一つ
寿命が長いので、全国に天然
記念物の指定が多い。

樹高 約38m
枝張 約25m
樹齡 推定 250年

宗福寺のコウヤマキ

スギ科 常緑高木

日本特産種 和名の語源に
なっている和歌山の高野山で
は霊木として保護され、枝を
仏前に供えるので紀州では一
般民家の庭に植えられない。

四月頃開花翌年10月頃成熟

樹高 約19m

枝張 約14m

樹齡 推定 350年

